

平成21年度森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業委託先の公表について

林野庁では、林地残材や間伐材等、未利用森林資源の利用促進のため、先進的な技術を活用し、木質バイオマス为原料とする新たなエネルギーやマテリアル製造システム構築のための技術実証を行う「森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業」を、平成20年度から委託事業として実施しています。

平成21年度には、平成20年度に採択した4件の課題に加え、新たな企画提案の募集を行い、次のとおり委託先を決定しましたのでお知らせします。

○水蒸気爆砕法による木質バイオマスからの高機能樹脂等製造システムの確立
(高付加価値型製造システム)

委託先： 国立大学法人 徳島大学

実証施設： 徳島県徳島市

予算： 平成21年度 99,985千円

事業概要： 木質チップを耐圧容器に入れ、高温高压の水蒸気で蒸煮し、一気に圧力を開放して木質繊維を粉砕する水蒸気爆砕法を用いて、木質をリグニン、セルロース、ヘミセルロースに分離し、それぞれの成分からエポキシ樹脂、樹脂への混合材料や液体燃料、キシリトールを製造するシステムを構築する。水蒸気爆砕法は、薬品を使用しないため、環境負荷の小さい技術である。

○木質バイオマスからのリグノフェノール及びメタン製造システムの確立
(小規模分散型製造システム)

委託先： 旭有機材工業株式会社

実証施設： 島根県隠岐の島町

予算： 平成21年度 100,000千円

事業概要： 木粉にフェノール系の溶媒を混ぜてから酸を加えることにより、リグニンを壊さずに各成分を分離することができる（相分離変換法）。この技術を用い、リグニンからはリグノフェノールを、セルロース、ヘミセルロースからは生成した糖液をさらに発酵させメタンを製造するシステムを構築する。リグノフェノールは、熱可塑性樹脂としてパレット等の物流部材などに利用する。

審 査 の 経 過 等

森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業では、平成21年度新規課題として、高付加価値型製造システム及び小規模分散型製造システムの2課題についての企画提案を3月10日から4月22日までの間募集しました。

5月15日に、企画提案会及び外部有識者による審査委員会を開催し、応募された6件の提案について厳正な審査を行いました。

審査の結果、審査委員会から契約候補者2者が推薦され、これを受けて林野庁は契約候補者と契約に関する協議を行い、推薦された2者と委託契約を締結しました。

○対象課題別契約者数

対 象 課 題	応募件数	契約者数
(1) 高付加価値型製造システム	2 件	1 件
(2) 小規模分散型製造システム	4 件	1 件
合 計	6 件	2 件

○審査委員会委員（五十音順）

氏 名	役 職
あかいけ まなぶ 赤池 学	(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
きたに おさむ 木谷 収	日本大学大学院 総合科学研究科 教授
しげはら きよたか 重原 淳孝	東京農工大学 工学部 教授
すずき つとむ 鈴木 勉	北見工業大学 工学部 教授
なめしだ たかし 滑志田 隆	東京農業大学 客員教授、毎日新聞社 名誉職員
よこやま しんや 横山 伸也	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

お問い合わせ先
〒100-8952
東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
林野庁研究・保全課技術開発推進室技術指導班
担当：清水、小口
代表：03-3502-8111（内線6215）
ダイヤルイン：03-3501-5025
FAX：03-3502-2104